

平成30年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

1 徳・知・体の調和のとれた教育の推進		
① 豊かな心をはぐくむ教育の推進		
1 一人一人の児童生徒の尊重 学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。	2 友達への思いやり 子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。	3 道徳・心の教育の充実 学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に向けていますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)
3つの項目すべてにおいて昨年度に比べ、保護者・教師の「3」「4」の割合が増えている。特に「道徳・心の教育の充実」の保護者の評価が6ポイント上がっている。これは、本校でこれまで一貫して実践研究してきた「児童理解」を核にした授業づくりや縦割り班活動、VS活動、緑化活動、人権集会などの豊かな体験活動や話し合う活動を大切にして取り組んできて少しずつ浸透してきた成果であると考えられる。ただ、児童の評価に「1」「2」が6%ある。さらに、一人一人の思いやりに寄り添い、保護者や関係機関と連携して個別支援を充実させたい。		

② 確かな学力を育む教育の推進		
4 意欲的な学習態度 子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。	5 授業力向上 先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	6 ICT活用 先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。
児童も保護者も昨年度に比べ3項目すべてにおいて「4」「3」の割合高くなっていった。これらの結果の中でも、児童の「授業はわかりやすく楽しい」「進んで授業を受けている」という評価が昨年度に比べ順に3ポイント、4ポイント伸びていた。また、「先生方はみなさん一人一人の気持ちを考えて接してくれていると思う」という児童が昨年度に比べ3ポイント上昇していた。これらの結果は、研究主任を中心として、子どもの自尊心を高めるために、子ども、教材、教師のつながりに着目し、位置づけた子どもを手がかりに「みんなで伸びる授業」をめざし実践し、全職員でその成果と課題を共有し授業改善を進めてきた成果であると考えられる。		

③ 健やかな体を育む教育の推進	
7 健康づくり 子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。	
保護者・児童・教職員の「4」「3」の評価が、それぞれ1ポイント下がっていた。特に、児童の評価「2」「1」が、23%を占めていた。家庭と連携した生活習慣作りの取組をさらに工夫し具体的に進める必要がある。	

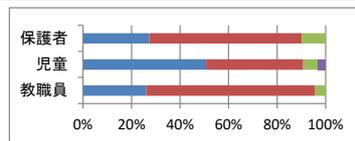
2 子ども一人ひとりを大切にする教育の推進		
① いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実		② 特別支援教育の推進
8 児童生徒理解 先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。	9 いじめや問題への対応 学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。	10 学校の支援体制 学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。
児童理解、いじめ問題への対応、学校の支援体制すべてにおいて保護者の「4」「3」の評価が昨年より上がっていた。これは、児童理解朝会や校内研修、ケース会議などを主体的かつ計画的に実施し、気になる児童や支援を要する児童について全職員で情報共有し迅速に対応してきた成果であると考えられる。特に、本年度はSCやSSW、保健子ども課、放課後デイサービス、児童相談所とも密に連携し保護者や児童の思いを十分踏まえた個別支援を行った。少しずつではあるが改善しつつある。しかし、子どもの評価で、「2」「1」の割合が1割程度存在する。この結果を真摯に受け止め、全職員で児童理解や聞き取りの在り方などを見直し改善していきたい。		

3 安全で良好な教育環境の整備	
① 子どもたちの身近な安全対策の充実	② 最適な学習環境の整備
11 安全と事故防止 学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	12 施設・設備の安全管理 学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。
保護者、職員ともに「4」「3」の評価が、昨年度より3ポイント上がっていた。6月に実施した児童引き渡し訓練、地域防災訓練をはじめ防犯協会や交通安全協会による見回り安全指導など地域ぐるみで日常的に安全指導が行われている成果であると考えられる。骨折や危険行為など数件あった。今後さらに安全指導に取り組みたい。	保護者の「4」「3」の評価が昨年より1ポイント上がっていたが教職員の評価が4ポイント下がっていた。遊具の老朽化による修繕や撤去要請、給食室屋根の老朽化、東校舎屋上の老朽化による雨漏り、ブロック撤去や老木の撤去などその都度報告し改善を図ったが十分ではない。今後も引き続き改善を図っていきたい。

③家庭・地域社会との連携強化

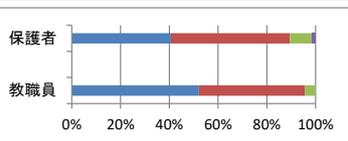
13 教育方針・目標の理解

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



14 家庭や地域との連携協力

子どもたちが安心して過ごせる学校になるように取り組んでいますか。

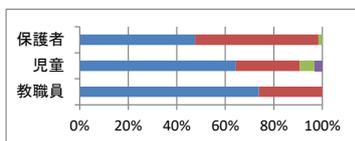


教育目標や方針を定例のPTA役員会や運営委員会、自治協議会、学校だより等で周知を図った。また、熊本東警察署や保健子ども課、東野中学校とも密に連携し、問題行動や不審者情報などを迅速に共有し対応を行ってきた。その結果、保護者の「安心して過ごせる学校」の「4」「3」の評価が昨年度より7ポイント上がっていた。教育目標に関する評価は昨年度と同じであった。学校ホームページなどを活用しさらに啓発していきたい。

◎本校の教育

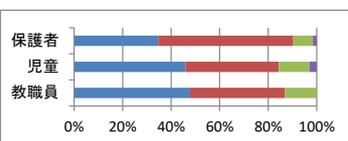
15 安全な環境づくり

子どもたちが安心して過ごせる学校になるように取り組んでいますか。



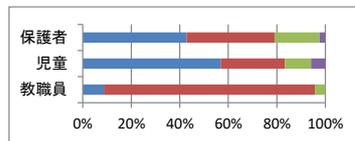
16 学びの環境づくり

すべての授業で、子どもたちが、友達の意見を聴いたり、自分の考えを伝えたりして学び合う時間（場）を設定していますか。



17 健康増進

子どもたちは進んで運動に親しんでいますか。



①「安心して過ごせる学校」②「授業中の意見の伝え合いの時間と場の設定」に関する保護者の評価は昨年度より順に5ポイント、1ポイントずつ上がっていた。児童に関しては①は3ポイント上がっていたが、②は3ポイント下がっていた。これは、教師の児童理解や個に応じた支援の質が向上している半面、18%の児童にとっては伝え合いや学び合いが十分保障されていないことがうかがえる。この結果を真摯に受け止め、さらに授業改善に取り組みたい。
③「運動の主体的実施」に関しては、保護者、教師、児童すべてにおいて「4」「3」の評価が約4ポイントずつ下がっていた。遊びの場の確保や運動への意識向上を図るための啓発や外遊びの奨励など推進校の取り組みを参考に保護者とも連携して取り組んでいきたい。

来年度の具体的な取り組みについて

- 教育目標や方針の周知に関しては、今後、更に分かりやすく、学級・学校便り、PTA広報誌、諸団体合会、学校ホームページなどあらゆる機会を通して情報発信を行う。
- 新学習指導要領実施に向けて、指導計画や移行措置内容を理解し、遺漏の無いよう、カリキュラムマネジメントを全職員で行う。また、社会に開かれた本校独自の教育課程を作成実施するための家庭連携や地域連携の在り方を模索する。
- 部活動の社会体育移行に向けた準備と周知を行い、スムーズな移行を目指す。また、学校行事や日課、校務分掌の見直し等により、職員の時間外労働時間をさらに削減し教材研究や子供と向き合う時間をさらに確保する。
- 本校独自の豊かな体験活動を継続して実施する中で、内容の見直しも図る。また、緑化活動推進に関しては、児童が主体的に活動できるような工夫と改善を行う。
- 全国学力・学習状況調査、市学力テストの結果を分析し全職員で課題を共有し、「授業改善5つの視点」を踏まえ、且つICTを活用した授業改善を推進する。
- 豊かな体験活動と関連付けた合理的な道徳教育を推進し、豊かな心の育成を図る。また、親子道徳の日に全学級授業を公開する。
- 「早寝、早起き、朝ご飯」の推進とともに、45分間の昼休み時間を有効に生かし、外遊びを推奨し、児童の体力向上を図る。また、食事・運動・睡眠（休養）のバランスを大切に、基本的な生活習慣の確立を保護者や中学校と連携して取り組む。

学校関係者評価

- 全体的に昨年度より向上していることは素晴らしいことである。一方、「友達への思いやり」の児童評価で「2」「1」の児童が出てきていることに対して今後、学校全体で検討し、再度取組を進めてほしい。
- 校内音楽会での子どもたちの演奏や聞く態度など、昨年度同様よかった。特に本年度は音楽劇やミュージカルなど学年のカラーに応じた演奏もありとてもよかった。
- 運動に関する評価が低くなっているが、部活動以降に際して、地域での取り組みなどを進めていく必要がある。総合型地域スポーツクラブなども連携していきたい。
- 地域も学校と一体になって体力向上や生活習慣の改善などに取り組みたい。地域の体育協会をはじめ、指導者の資格取得なども考えている。
- 徳・知面やその他、全体的に学校が大分良くなったと感じている。他の学校に指導に行く機会もあるが、本校の子どもたちの聞く態度や日頃の挨拶などからも、若葉小が良くなっていると感じている。